

【臨床・研究】

健診受診者の血圧管理の現状と課題に関する研究

まきの ゆみこ¹⁾ おむら えみこ¹⁾ おおしろ ひとし²⁾
牧野 由美子¹⁾ 小村 恵美子¹⁾ 大城 等²⁾
おか たつろう³⁾ なごし きわむ⁴⁾
岡 達郎³⁾ 名越 究⁴⁾

キーワード：健康診断，高血圧治療ガイドライン，血圧管理状況の変化，
降圧剤，平均収縮期血圧

要 旨

当財団の2012年度と2021年度の健康診断受診者について，高血圧治療ガイドラインを踏まえて血圧管理状況の変化等の比較検討を行った。高血圧有病者率及び血圧値が高血圧領域の者の割合は，10年前に比べあまり変化していないが，高血圧領域でない者についてみると血圧レベルは改善している。また，降圧剤服薬者の血圧管理レベルも改善が認められた。これらの結果，全体の平均収縮期血圧は低下していた。しかし，脳卒中発症状況については顕著な改善に至っておらず，今後も血圧管理と脳卒中発症の状況分析が必要と思われた。

【はじめに】

高齢化の進む今日，血圧管理は健康寿命延伸に向けた重要な課題のひとつであり，国においても平成30年「脳卒中，心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」¹⁾が成立し，推進されている。筆者らは以前，2008～2012年度の島根県における国保特定健診及び事業所健診受診者の血圧管理状況について「高血圧治療ガイドライン2014

(以下，2014ガイドライン)」(表1)²⁾に基づき分析し，降圧剤服薬者の高血圧管理率(後述)が6割程度であることを報告した³⁾。

今回は，当財団の2012年度と2021年度健康診断受診者の血圧管理状況の変化について検討することを目的に，分析・検討を行った。

表1 高血圧治療ガイドライン2014
成人における血圧値の分類

分類	収縮期血圧	拡張期血圧
至適血圧	<120	かつ <80
正常血圧	120-129	かつ/または 80-84
正常高値血圧	130-139	かつ/または 85-89
I度高血圧	140-159	かつ/または 90-99
II度高血圧	160-179	かつ/または 100-109
III度高血圧	≥180	かつ/または ≥110
(孤立性)収縮期高血圧	≥140	かつ <90

Yumiko MAKINO et al.

1) 公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根

2) 合同会社 DATA MILL

3) 島根県隠岐保健所

4) 島根大学医学部環境保健医学講座

連絡先：〒693-0021出雲市塩冶町223-1

公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根